

令和3年度 自己評価表(中間評価)(案)

鳥取県立米子西高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人材の育成を図る。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進</p>
---------------------------	---	----------------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 9 月 (中間評価)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。ICTの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は86%であった。	授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が85%以上になる。	・主体的、対話的で深い学びの推進を図り、ICT活用の職員研修を充実させ、授業でのタブレットや電子黒板を利用する教員の増加に繋げる。(R2:80.9%→R3:90%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。	・1組に2学期からクロムブックを全員に貸与する。次年度へ向けての布石とする。 ・クラスルームが徐々に浸透してきている。 ・授業アンケートは11月実施予定。	B	・他のクラスと関係、保護者の了承、校内での使用規定、破損した場合の対応など問題は山積であり、実施しながら改善を加えていきたい。
	みらいチャレンジ活動の充実・発展	みらいチャレンジ活動も5年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動をとおして、主体的に活動できる力が身につく。	・ハイレベル講座を7月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。	・予定していたハイレベル講座を2学期にインテルから招いて行う予定。 ・2年次での探究活動をより充実させるため、1年次生の3学期からみらいチャレンジ活動を開始する。 ・協働学習が充実するよう計画していたが、1学期は休校が重なり、行事の中止を余儀なくされた。 ・「総合的な探究の時間=みらいチャレンジ活動」としての時間が単発的で回数も少なく、継続的に活動できていない。	C	・年度当初からインテルとの連携をを強みとし、依頼講師に本校が目指す姿を伝えながら、より充実した内容とする。 ・メールや電話、リモートによって、事業所と連絡を取りながら、生徒が課題解決活動に向けてより主体的に取り組むよう促す。 ・時程を週36コマを基本とし、例えば水曜を8限までとすることで、教育課程の授業を日常的に行えるようにする。進路学習や日常の振り返りもみらいチャレンジ活動としてカリキュラムに組み込む。
	学習習慣の定着	家庭学習時間調査結果によれば、1日の学習時間(1年94分、2年122分、3年202分)が不足している。	体系的・組織的な「学習記録」を導入し、学習習慣が定着する。	・「学習記録」を導入し、自らの振り返りを通して、主体的に学習する習慣が身につくように指導する。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。	・6月学習時間調査では1日の平均学習時間が、1年次135分、2年次71分、3年次135分であった。 ・分かれて総体を行っている期間であり、過年度との比較は難しいが、2年次生の日常的な学習は少ない。	C	・記録の常態化、啓発、質の向上を促す。 ・特に平日の時間の使い方についての確認を行う。
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が51名・難関私立大現役合格者22名であり、目標を達成できた。	国公立大学現役合格者50名 難関私立大学現役合格20名	・学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒理解に努め、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・生徒の能力を最大限に引き出せるよう、講習等の時期や内容について検討し、効果的に実施する。	・1年次生は、7月進研模試3教科の平均偏差が51.1であり例年より高い。 ・企画部は入試対策としてプレゼンテーションや新聞を使ったスクラップブックについて指導をしている。 ・6月～9月まで国数英を中心に放課後講習を実施し80人余り受講した。 ・10月～11月には理社の放課後講習を実施予定である。	B	・本登録に向けて、学力、本人の志望、適性を加味しながら全体指導、個別指導の継続。 ・今後も引き続き、生徒一人ひとりに応じた進路指導を行っている。 ・総合選抜・学校推薦入試に向けてプレゼンテーション講習を実施予定である。
2 他者を認め、人とつながる力の育成	基本的生活習慣の確立	真面目な生徒が多く、年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合は80%である。自己肯定感の高まりを感じる生徒が48%程度である。	・年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合が80%以上。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が70%。	・令和元年度末に導入した「遅刻届」を活用して指導する。 ・掃除を徹底し、奉仕の精神を培い、校内美化に努める。 ・SNSモラルについて指導し、情報リテラシーの育成を図る。 ・探究的な活動や生徒会行事、ボランティア活動等、様々な活動を通して、生徒に達成感・効力感を獲得させる。 ・生徒面談を活用して生徒の学習意欲を喚起しモチベーションを引き上げる働きかけを行う。	・遅刻について昨年度同時期と比較すると、出校日数の違いもあるが若干増加している。 ・生徒の要望を踏まえ、学校生活で着用できる靴下の色の種類を増やした。	C	・夏休み明けは様々な変化が起ころがち、今年度はコロナもあって不安定になる生徒も考えられる。個別指導、家庭連絡も密にとって対応する。 ・SHRや集会を利用して、時間を守ることの大切さを伝え指導する。
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で多くの大会が中止となったが、運動部全国・中国大会7競技、文化部全国大会5部門が出場した。	運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限の中の活動が続いているが、個人種目で全国高校総体3種目に出場した。 ・全国総文祭にも5部門出場している。	C	・新型コロナウイルス感染症の対策を徹底し、様々な制限の中で効率よく活動できるように計画を立てる。
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業等で実施している。	社会人講師から多様な考え方や生きた方、最先端の技術等を学ぶことで、社会の一員となる意識が身につく。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。	・1年次生対象の社会人講話では、生徒は普段学校で学べない知識・スキルを学び、社会で活躍する同窓生の話聞き、積極的に質問した。 ・生徒支援に関して、年間計画通りに各学年の講演会を実施できた。生徒の反応はおおむね良好で、他者との関わり方や自分の生き方について考えることができたというものが多かった。 ・生活看護と福祉の授業で、鳥取大学医学部の看護師を招いて授業を実施した。	B	・依頼講師の職種について、生徒の興味も考慮しながら吟味する。 ・講義形式については講師の負担、生徒の教室移動も含めて見直し、改善していくべきか今後検討する必要がある。
3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。	・4月実施「市職員との合同ワーク」では、各グループで事前に準備された質問が、学習の深さを感じさせるもので、今後の課題解決学習に期待が持てるものが多かったが、表現等を改善する余地がある。	C	・ルーブリック評価表を導入し、生徒自身に自己評価させたが、目標に向けてどのような取組が必要なのか理解できたようである。更にこの評価表を充実させ、生徒の意見を反映させて、探究活動に取り組むよう促す。
	学校の魅力・特色の情報発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和元年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)	地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。	・「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」の企画・運営方法を早期に決定し、部活動の枠を超えたコラボレーションや学習成果など、学校の特色・魅力を効果的に発信できるよう計画する。	・「みらいチャレンジ活動」の成果発表会を1月に、「翠燦く」を3月に実施することにした。 ・3年次生が探究活動の重要性をアピールする「みらいチャレンジを楽しもう！」動画を作成した。	B	・左記の動画を中学生対象の高校体験入学などで上映し、入学希望者への意識付けをする。
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究、分掌業務等で、時間外業務を削減できない教員もあった。	時間外業務時間月45時間、年間360時間を超える勤務者の解消。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 ・各分掌の業務内容の見直しを図る。	・時間外業務時間が月45時間を超える勤務者は、減少傾向にあるものの特定の教員に集中している。 ・分掌と学年との連携に不十分な点があった。	D	・部活動計画表で30時間を超える計画については、計画の見直しを図るよう依頼する。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】